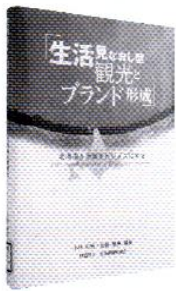


## 生活見なおし型観光とブランド形成：北海道&地域をビジネスにする



小林好宏 編著  
佐藤郁夫  
北海道開発協会  
2008.11

本書は、札幌大学と(財)北海道開発協会が、2001年から取り組んできた観光の持つ北海道経済振興の可能性に関する共同研究の成果として出版したものです。タイトルの「生活見なおし型観光」とは、19世紀、20世紀が人口増加に支えられた工業化社会であったとみて、21世紀が脱工業化社会の訪れとともに表出した生産や社会の個人化の時代であり、それに起因する生活スタイルの変化に対応した観光のあるべき姿を表したものです。

地域では現在、就労人口の都市部への流出が進み、北海道でも少子高齢化と人口減少が顕著になっています。しかし、地域を構成する「資源」「人材」の経営要

素に「アイデア」「マーケティング」などの視点を加えることによって現状の改善が可能です。地域資源を発掘・活用してデザイン等で加工、消費者に魅力を発信するビジネスシステムの確立です。本書は北海道の地域おこしに取り組むうえでこの視点の重要性を著しています。なお、先立って出版された北海道大学出版会発行「観光と北海道経済 [357.921 || Sa85]」と併せて読んでいただき、地域経済や生活スタイルの変化とその対応策について改めて考える機会を持っていただくことを希望します。[357.921 || Ko12]

(経営学部教授 佐藤郁夫)

## PERA PERA ホッカイドー：英語で北海道をガイドする本



遠藤昌子  
アマンダ・ハーローウ  
共著  
北海道新聞社  
2008.6

世界共通語である英語でのコミュニケーションの重要性は高い。異文化学習と同様、日本の文化を海外に紹介する事を教えるのは英語教育の大切な目的である。本書の執筆動機は、札大女子短大授業での使用に適した北海道を紹介する英語テキストがないことであった。

本書では、海外からの訪問者を迎える場合や、ボランティアとして外国人を案内する場合を想定し、英語初心者でも活用できる7語前後の短文を多用した。

第1章は、海外からの訪問者の到着からお別れまでに必要な表現。第2章では、北海道の代表的な自然や観光都市、第3章では、札幌で外国人が興味を抱く場所や行事に関する説明例を紹介した。また、通訳案内士としての筆者の経験から、異文化理解を助けると思

われる事柄をイラストコラムや帯コラムにまとめた。共著者は、在日経験の長い外国人の視点から、日本人が外国人に日本文化を紹介するためのヒントを提供している。

近年、東南アジアを中心に外国人来道者の増加は著しい。そのような人の多くは、言葉の壁があり、地元の人とコミュニケーションを取れない事が残念だと語る。そういった状況は、英語をコミュニケーションの道具として活用することで改善できるのではないだろうか？北海道には素晴らしい自然、美味しい食べ物があり、それに加えて、フレンドリーな人間がいることを、海外からの人にもっと知ってもらいたい。北海道を紹介する英語は、多くの人に是非学んで欲しいものである。[837.8 || E59]

(女子短期大学部講師 遠藤昌子)

## 豊かさをつかむために：落ち穂を残す精神



元田厚生 著  
中西出版  
2008.1

世界はいま未曾有の経済危機に襲われているが、これは台風や洪水のような自然現象ではない。「政府の失敗」と「市場の失敗」とそれらを助長した「旧経済学の失敗」の複合的産物である。

たとえば小泉改革は第1に、日本のモノ輸出を容認して買うためアメリカに金融分野を差し出し、日本の金融がアメリカの一部に組み込まれた結果、アメリカ発の金融危機がいまモロに日本を直撃している。

小泉改革は第2に、輸出産業の賃金コストのカットに協力して、それまで禁止されていた製造業への労働者派遣を解禁した。その結果、200万以下のサラリーマンを大量に創出しただけでは飽きたらず、アメリカの不況を受けた輸出製造業のハケン切りとなってツケを払わされている。

これらの人為的な失敗をあたかも避けることのできない自然現象であるかのように解説するマスメディアは、無責任きわまりない。

短期的には、製造業に対する労働者派遣を再度禁止し、不正規社員を法的に禁止すれば、格差問題と国内の購買力の縮小問題とは解決できる。しかし、長期的な低迷に苦しむ日本経済の本格的な回復は別である。なぜなら、その低迷の原因はモノに依存して来た、これまでの経済システムそれ自身の機能不全にあるからである。

さらに、経済学がその経済システムを支持し助長して来たことも事実である。これまでの旧い経済学はモノ中心に理論を組み立て、享受能力・価値判断力・トキ・自由時間・精神的豊かさなどを、経済学の外に追いやってきたからである。否定されるべきは、市場を崇拜するシカゴ学派だけではない。

経済社会が新しい段階に移行すれば経済学もまた新しい枠組みを必要とする。この本は「モノとトキ」をタテ軸に、「自然と人間の再生産」をヨコ軸にして、新しい経済学を提示する。[331 || Mo83]

(経済学部教授 元田厚生)